

宗門内外の 環境変化から

2012年に行われた「第7回教勢調査」(※①)では、少子高齢化、価値観の多様化などの周辺環境の変化をはじめ、法要行事への参詣者減、転居門徒との無縁化といった「**教勢の減少**」が露わとなりました。

一方、その厳しい情勢の中にあっても、持続性をもって教化に取り組んでいるお寺の特徴も浮かび上がってきました。

それは、規模の大小や都市部・過疎地などの区別なく、同朋の会や聞法会などによって、僧侶と門徒が「**双方向のコミュニケーションを定期的に持つ**」ことができているという点です。

このことから「お寺における僧侶・門徒間での問題意識や課題共有の大切さ」が、今後のキーワードとして捉えられました。

― これからのお寺のあり方 ―

2013年に開催された「中央同朋会議」(※②)では、お寺のあり方について意見が交わされました。

反省的に語られたこととして、これまでの「待つ教化」だけではなく、お寺が地域へ「**出向く**」ことが大切であり、その関係性の中で、「**お寺が地域に「なくてはならない」存在になれるかどうか**。つまり、「お寺の存在意義や使命を明確にし可視化する」ことができるかが手がかりとなりました。

これら「**教勢調査**」と「**中央同朋会議**」を経て、僧侶と

門徒が共に学び・共に場を創る「**共学共創**」。そして、地域におけるお寺の必要性を回復していくために「**出向く・原点を確かめる**」ことが、寺院活性化のキーワードとなりました。

このような経緯を経て、お寺の長所を活かした将来計画を僧侶と門徒が一緒に話し合いながら考えていく「**元気なお寺づくり講座**」が始動したのです。

【語句解説】
※①宗門が定期的に行う調査。国で言う国勢調査にあたる。
※②全教区の教化に携わる代表者など百数十名が集う協議会。

活性化の要 ― 活動の下支え ―

種子を植えて作物を育てる。その際に重要なことは、土と気候です。土を丁寧に耕してその作物に適したものにし、気候を見て、種子を植える。この条件が揃う時に作物は成長します。

「寺院活性化支援」の取り組みでたとえると、

土壌はお寺そのもの。
種子は事業。

気候環境はお寺を取り巻く社会状況です。

どこにでも生える万能な種子はなく、活性化とは、そのような種子をお寺に渡すことではありません。願った種子が芽吹くように、土壌を練り上げる作業に寺族と門徒が参画する。そこそが、「寺院活性化支援」の眼目です。

お寺の環境や状況は千差万別で、活性化の在り方も多様にあります。今までお



寺はその地域の僧侶と門徒で構成され、「寄合談合」によって運営されてきました。つまり、僧侶と門徒で「そのお寺」「らしさ」を発揮して現在まで歩んできたのです。

寺院活性化は、なにも新しいことをするわけではありません。お寺の規模の大小に関わらず、個々のお寺に必ずある、伝わってきた「無形の価値(強み)」を再発見し、時代の多様性に対応できるような磨き直しにつながります。すると、ピンチをチャンスに変えていく機会が増えます。

かつて「元気なお寺づくり講座」に参加した門徒が、活性化の意味するところをこう表現してくれました。「そりゃ簡単や。仏法を開く縁が広がっていくことやろ」と。またある門徒は、「住職・若さんが、私たちにお寺のことを相談してくれた。ありがたい」と。

人と人の間に仏法を受け取る場が生み出されている具体的な姿です。これが寺院の活性化なのです。

そして、「支援」とは、専門家が乗り込んで行って主導するものではありません。**主役はお寺**。お寺が主役ということは、そこに関わる一人ひとりが主役であるということです。

そこで支援するとは、現場に赴き、寺業(寺院の活動)のメニュー作りや活動の再構築に関わっていくことを通して、有縁の人々がイキイキと輝く舞台環境を整えるための、**伴走**です。

お寺には、仏法を元に、私たちの生き方を支えるたくさんの可能性があります。寺院活性化支援の取り組みはそれぞれを再発見していく一歩です。

フレームワークとは？

寺族と門徒による“お寺の棚おろし”

「うちの寺なんか、特になんもないよ」。これは、「元気なお寺づくり講座」でよく聞かれる言葉です。しかし、フレームワーク(考え方を整理して新たな視点、抜けている視点を見つける枠組み)を用いて進めていくにしたがって、さまざまな**お寺の「無形の価値」**が発見されていきます。それは、「あたりまえ」と思い、気にも留めなかったものや、まったく気づいていなかったもののまで。

お寺の「無形の価値」に気づき出したら、そこからの展開は加速します。何をやるべきか↓その優先順位↓具体的手法や段取り↓年限が形になっていきます。さながら、その風景は、寺族と門徒によるお寺の棚おろしのようです。

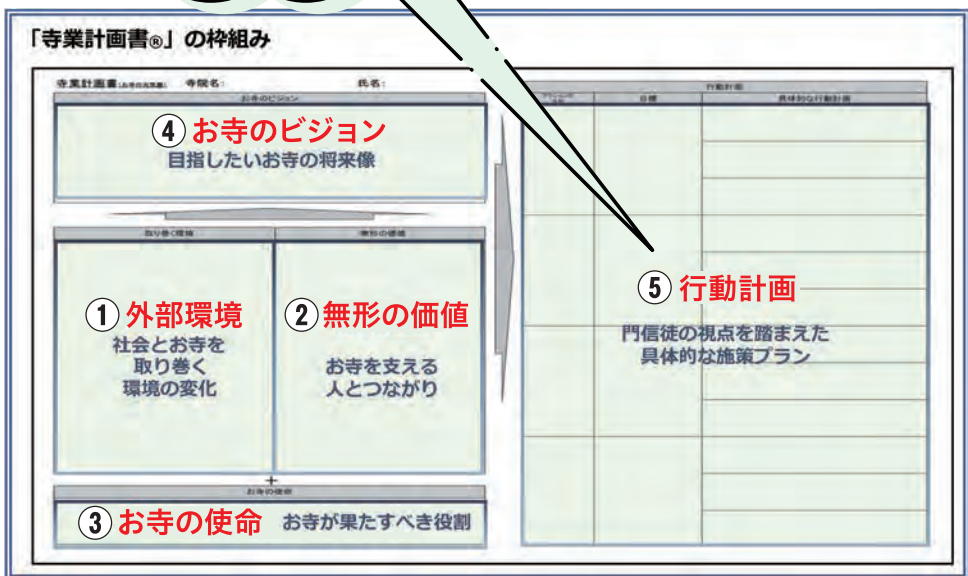
商店にたとえると、「今店にある商品が何で、地域の方々はどのようなものを求めている、どれを多く仕入れればいいのか。その作業を通して見えてくるものは、顧客ニーズです。商店における棚おろしは、現在の店舗の立ち位置とニーズを見定める大切な作業です。それがお寺でなされる時、お寺はただ長年そこにあったのではなく、人々の深い欲求に応えるようとして存在していることが見えてきます。

フレームワーク【左下図参照】では五つの作業項目を設けています。

①**外部環境**…お寺を取り巻く環境はどのようなものであり、それはどのように変化しているか。
②**無形の価値**…お寺が持っている潜在的な強みとは何か。

これまで出てきた行動計画の具体例

- ・本堂(御本尊前)での葬儀の定着【新潟県】
- ・報恩講の参拝者を現状の倍にする3か年計画【滋賀県】
- ・子どもたちが主体となる企画の実施【広島県】



一つひとつのお寺がその一歩を踏み出す時、宗門は大きな一歩を踏み出すこととなります。

③**使命**…お寺は、何を今の人々に提供しようとしているのか。何をもちて欠かせない存在であろうとするのか。
④**ビジョン**…お寺が願う目指すところは何か。

⑤**行動計画**…どのようにして「使命」や「ビジョン」を達成しようとするのか。

実際に①から進んでいくことによって、寺業計画が具体化していきます。フレームワークは魔法の道具ではありません。あくまでも目前にあるものを捉え直す手助けをしてくれるものです。そのフレームに従って考え方や捉え方をお寺に関わる人々が協力して整理していく時、そのお寺の現状と歩き出す方向が明確になります。

地図を見るにしても、どこに

いるかがわからなければ、実際に歩き出す方向がわからないように、まず大切なことは、現在の認識です。フレームはその手助けをしてくれます。

そして、今いる場所と願う姿が定まるならば、あらたな一歩は、いたずらに踏み出す一歩ではなく、確かな方向性を持った一歩になります。

元気なお寺づくり講座

全5回のフレームワークを通して、お寺の将来像へのロードマップとなる「寺業計画書®」を完成させていく講座です。部分的に体験することもできます。



三条教区での元気なお寺づくり講座

お寺に寄り添う講師派遣

多様なニーズに応じるために、お寺の現状と未来について丁寧な聞き取りを実施し、適した講師を派遣します。複数箇所での連続講座なども要望に応じて可能です。



岡崎教区安楽寺への講師派遣

子どもや若者との 出あいの場づくり支援

青少年教化に関するお寺の悩みや状況の聞き取りから、子どもや若者との出あいの場づくりを青少年センターと連携して考えます。



山陽教区妙蓮寺での若者によるおみけ

文書伝道マニュアルと セミナー

お寺から発信するあらゆる文書(掲示板や案内チラシ、寺報など)に関する作成マニュアルを元に、要望に応じて講師が出向して講座を開催します。完成まで丁寧にサポートします。



全寺院に配布しています

いずれの事業においても、きめ細やかな対応ができるように「現場に赴くこと」と「丁寧に傾聴すること」を大切にしています。ぜひとも実際に体験し、お寺の活動にお役立てください。

そのほか、ホームページからの情報発信や YouTube など、インターネットを活用した法話配信、地域と別院の活性化プロジェクトなどさまざまな取り組みをしています。詳細はこちらから。



「浄土真宗ドットインフォ」

寺院活性化に関するお問い合わせ	しんらん交流館 内 真宗教化センター「寺院活性化支援室」 TEL 075-371-9208 Mail kikaku@higashihonganji.or.jp
-----------------	---

裏面では「寺院活性化の現場リポート」を紹介しています。併せてご覧ください。

『同朋新聞』2022年6月号をもとに制作